

## 小論文1 (日本語の課題)

次の文章を読んだうえで、後の問題に答えなさい。

18世紀の思想家ルソーは、自由を「自分自身の主人であること」と定義している。自分の意志で自分の行為を決めることができる、さらに言えば、自分の人生を自分でつくっていくことができる、という意味である。

しかし自由に生きるのは、じつは難しい。そのためには、〈したい〉と〈できる〉という2つが必要だからだ。

〈したい〉とは、「自分は何をしたいか」がわかっているということだ。こういうことをやっていけば楽しそうだとか、これをやれば皆が喜んでくれるはず、ということがわかっているとき、それをめざして人は意欲的に人生をつくろうとする。しかし、何らかの理由で〈したい〉がわからなくなってしまうなら、人はいわば方向を見失い、人生をつくろうとする前向きの意欲をもてなくなる。

次の〈できる〉とは、上の〈したい〉を実現するために必要な条件のことを指す。具体的には、心身の「能力」や、時間・金銭・人脈などの「資源」のことである。もしそれらがひどく不足していて、しかも、自分の努力で増やすことも無理だと思うとき、人はその〈したい〉をあきらめざるを得なくなるかもしれない。

ここから、私は自由に生きている、つまり、自分の人生を自分でつくっていると実感できるためには、〈したい〉と〈できる〉の2つのバランスがある程度とれている必要がある、ということがわかる。

さて、人生の様々な局面を、この〈したい〉と〈できる〉という面から見てもおもしろい。

人が「成長」ということは、身体的能力・技能や知識が伸びていくこと、つまり、〈できる〉が拡大すること、といえる。そしてそれは、しばしば新たな〈したい〉をもたらす。英語を学んで読んだり話したりできるようになると、海外で仕事をしてみたいと思うようになった、というようなことだ。

これは、〈できる〉が拡大することによって〈したい〉が広がる（より広い視野のなかで新たな〈したい〉が出てくる）という場合だが、その逆もある。

たとえば、強いテニスプレイヤーに憧れて、「ぼくもそうなりたいなあ」と思う。そしてそうなりたいからこそ、練習に励んで技術を伸ばそうとする。つまり、〈したい〉を実現するために、〈できる〉の拡大を人は試みるのである。

しかし、いつもうまくいくとはかぎらない。強くなりたいと願って、がんばって練習をする。でもレギュラーにはなれない……。どうやっても、〈できる〉が追いつかない。そんな悔しい思いを、たいていの人は経験していることだろう。〈したい〉と〈できる〉のあいだで苦しむことも、人生のドラマの1つなのである。

**【問題】**

医療は、人びとの生活にどのような役割を果たしているのでしょうか。〈したい〉と〈できる〉という言葉を用いながら、あなたの考えを600字以内で述べなさい。